

平成17年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の一層の効率化を進めるため、昨年度に引き続き、次のような措置を講ずる。

- ①引き続き人事記録，給与計算等の人事事務，保険契約等の会計事務，保険請求事務等の共済事務及び情報公開事務の一元化を通して，業務の効率化を図る。
- ②引き続き各館の会計処理のための会計システムについて，同じシステムを使用している他の独立行政法人と共同でプログラムの修正を図り，事務の効率化を進めるとともに，複数法人で発注することにより，経費の節減を図る。
- ③引き続き空調設備（クーリングタワー）からの蒸発水量を把握，申請することにより下水道料金の縮減を図る。また，昨年度に引き続き節水，節電による省エネルギーの推進，配布資料等の両面コピー化によりコピー用紙及び廃棄物の減量化推進，古紙の再利用によるリサイクル及びLANの活用によるペーパーレス化を推進する。
- ④講堂・セミナー室等の活用については，昨年度に引き続き，教育普及事業の活発化，外部の利用促進に努め，講堂等の利用率の向上を図る。
- ⑤引き続き会場管理業務，設備管理業務，清掃業務等の外部委託を積極的に実施し，業務運営の効率化を図る。
- ⑥設備備品等の購入及び会場設営等の外部委託業務のうち，一般競争入札に相応しい業務については，すでに一般競争入札を実施しているが，平成17年度においては，設備備品等の購入において引き続き積極的に推進する。
- ⑦計画的業務遂行を進めるとともに，職員の健康管理及び超過勤務時間縮減のため，引き続き毎週水曜日を定時退館日とする。

2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善

- ①運営委員会，評議員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織，事務，事業等の改善に反映させる。
- ②会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り，併せて組織の活性化を図る。

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 収集・保管

(1) 中期計画に基づき，次のとおり美術作品等を購入する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

- ①近代日本美術史上の重要作品の収集を続けると同時に、20世紀の主要な国外作家の作品の拡充にも努める。
- ②国内外の現代美術の秀作を収集する。
- ③近代写真史上の重要作品の系統的収集を進める。
- ④明治、大正、昭和初期の工芸作品を拡充し、戦後の代表作を系統的に収集する。
- ⑤近代デザインの形成期である19世紀後半から1930年代頃までのデザイン作品を拡充する。

<フィルムセンター>

- ①過去3年間に逝去した映画人の代表作及び企画上映に必要となる作品を収集する。
- ②散逸が懸念される映画フィルムや劣化が著しいために緊急に修復・保存を必要とする映画フィルムを優先的に収集する。
- ③映画史上の重要な作品で、今後劣化が懸念される作品を収集する。
- ④F I A F加盟機関等との国際交流事業にとって必要となる作品を収集する。
- ⑤デジタル技術を活用して映画フィルムの複製及び修復・復元を図る。
- ⑥わが国における文化財保護のために戦後公開された日本劇映画の未収集作品のうち、1940年代から50年代の映画フィルムを中心に収集する。

(京都国立近代美術館)

- ①我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で主として美術・工芸について、近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品、近代美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集すると共に、優れた写真作品の収集にも努める。また、併せて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させる。
- ②同館が京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、次のとおり収集する。

- ①西洋美術における重要な流れを示し得る近世ヨーロッパ絵画等の収集
- ②各時代を展望し得るヨーロッパ版画の系統的収集

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため主として、次のとおり収集する。

- ①1945年以降の日本の現代美術の系統的収集
- ②1945年以降の欧米の現代美術の系統的収集

③国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集

- (2) 寄贈・寄託品の積極的な受け入れ及び活用を図る。
- (3) 24時間空調等による作品の保存管理及び館内各所の環境モニターを実施する。
- (4) 緊急に処置を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修復を行う。
- (5) 国内外の美術館等に対し、修復保存に関する協力と普及の推進を図る。
- (6) 東京国立近代美術館においては、施設の拡充を行う。
 - ①工芸館においては施設の拡充の検討を行う。
 - ②フィルムセンターにおいては相模原分館の保有地等の拡充の検討を行う。

2 公衆への観覧

- (1) 中期計画に基づき各館において展覧会や企画上映等を次のとおり実施する。
(東京国立近代美術館)

<本館>

[展覧会]

①「ゴッホ展」

期間：平成17年3月23日（水）～5月22日（日）

（60日（うち平成17年度51日間））

共催：NHK，NHKプロモーション，東京新聞

目標入館者数：32万3千人（うち平成17年度中は，27万4千人）

②「小林古径展」

期間：平成17年6月7日（火）～7月18日（月・祝）（37日間）

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：4万人

③「アジアのキュビズム」

期間：平成17年8月9日（火）～10月2日（日）（48日間）

共催：国際交流基金

目標入館者数：8千人

④「ドイツ写真の現在」

期間：平成17年10月25日（火）～12月18日（日）（48日間）

共催：読売新聞社

目標入館者数：1万6千人

⑤「アウグスト・ザンダー展」

期間：平成17年10月25日（火）～12月18日（日）（48日間）

会場：ギャラリー4

目標入館者数：1万6千人

⑥「須田国太郎展」

期間：平成18年1月13日（金）～3月5日（日）（45日間）

目標入館者数：1万9千人

⑦「藤田嗣治展」

期間：平成18年3月28日（火）～5月21日（日）

（50日間（うち平成17年度4日間））

共催：NHK，日本経済新聞社

目標入館者数：10万人（うち平成17年度中は，8千人）

⑧本館常設展「近代日本の美術」展 他 5回陳列替

目標入館者数：17万9千人

目標入館者数計：56万人

<工芸館>

①「伊砂利彦展」

期間：平成17年4月26日（火）～6月26日（日）（54日間）

目標入館者数：8千人

②「日本のアール・ヌーボー」（仮称）

期間：平成17年9月17日（土）～11月27日（日）（62日間）

目標入館者数：1万1千人

③特集展示「渡辺力のデザイン」（仮称）

期間：平成18年1月13日（金）～3月5日（日）（45日間）

目標入館者数：1万1千人

会場：ギャラリー4

④工芸館常設展「近代工芸の名品」 他 3回陳列替え

目標入館者数：3万3千人

目標入館者数計：6万3千人

本館・工芸館目標入館者総数：62万3千人

<フィルムセンター>

[上映会]

- ①「生誕百年特集 映画監督 稲垣浩」
期間：平成17年4月5日（火）～5月22日（日）（42日間）
目標入館者数：1万2千人
- ②「生誕百年特集 映画監督 豊田四郎」
期間：平成17年5月31日（火）～7月17日（日）（42日間）
目標入館者数：1万2千人
- ③「発掘された映画たち 2005」
期間：平成17年7月19日（火）～8月18日（木）（27日間）
目標入館者数：7千5百人
- ④「生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男」
期間：平成17年8月20日（土）～10月30日（日）（62日間）
目標入館者数：2万5百人
- ⑤「生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将」
期間：平成17年11月1日（火）～11月18日（金）（16日間）
目標入館者数：4千5百人
- ⑥「生誕百年特集 映画監督 中川信夫」
期間：平成17年11月19日（土）～11月27日（日）（8日間）
共催：特定非営利活動法人東京フィルムメックス実行委員会
目標入館者数：3千5百人
- ⑦「日韓友情年記念 兪賢穆（ユ・ヒョンモク）監督特集」
期間：平成17年12月6日（火）～12月25日（日）（18日間）
目標入館者数：3千人
- ⑧「シネマの冒険 闇と音楽 2006」
期間：平成18年1月5日（木）～1月22日（日）（16日間）
目標入館者数：3千人
- ⑨「フィルムセンター所蔵外国映画選集」
期間：平成18年1月24日（火）～3月26日（日）（54日間）
目標入館者数：1万6千人
- ⑩「松竹創立110周年記念 松竹映画再発見」
共催：松竹株式会社
期間：平成17年10月28日（金）～3月26日（日）（60日間）
目標入館者数：9千人

上映会目標入館者数計 9万1千人

[展覧会]

- ①「尾上松之助と時代劇スターの系譜」(併設：展覧会 映画遺産)
期間：平成17年4月5日(火)～10月9日(日)(155日間)
目標入館者数：7千人
- ②「松竹と映画」(併設：展覧会 映画遺産)
期間：平成17年10月28日(金)～平成18年3月26日(日)
(115日間)
目標入館者数：5千5百人

展覧会目標入館者数計 1万2千5百人

上映会・展覧会の目標入館者総数 10万3千5百人

(京都国立近代美術館)

- ①「河井寛次郎展」
期間：平成17年2月22日(火)～4月3日(日)
(36日間(うち平成17年度3日間))
共催：京都新聞社
目標入館者数：1万1千人(うち平成17年度中は、1千人)
- ②「村上華岳展」
期間：平成17年4月12日(火)～5月22日(日)(37日間)
共催：日本経済新聞社
目標入館者数：3万3千人
- ③「**throughthesurface**：表現を通してー現代テキスタイルの日英交流」
期間：平成17年4月19日(火)～5月22日(日)(31日間)
目標入館者数：1万5千人
- ④「加守田章二展」
期間：平成17年5月31日(火)～7月10日(日)(36日間)
共催：朝日新聞社
目標入館者数：1万6千人
- ⑤「小林古径展」
期間：平成17年7月26日(火)～9月4日(日)(36日間)
共催：日本経済新聞社
目標入館者数：2万7千人
- ⑥「堂本尚郎展」
期間：平成17年9月13日(火)～10月23日(日)(36日間)
目標入館者数：1万5千人
- ⑦「須田国太郎展」

期間：平成17年11月1日（火）～12月18日（日）（42日間）

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万9千人

⑧「ドイツ写真の現在」展

期間：平成18年1月6日（金）～2月12日（日）（33日間）

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万1千人

⑨「エルンスト・バルラハ展」

期間：平成18年2月21日（火）～4月2日（日）

（36日間（うち平成17年度34日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：2万人（うち平成17年度中は、1万9千人）

⑩ コレクション展「近代の美術・工芸・写真」（305日間）10回陳列替え

目標入館者数：11万人

目標入館者数計：26万6千人

（国立西洋美術館）

①「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展－光と闇の世界」

期間：平成17年3月8日（火）～5月29日（日）

（73日間（うち平成17年度52日間））

共催：読売新聞社

目標入館者数：13万人（うち平成17年度中は、9万4千人）

②「ドレスデン国立美術館展－世界の鏡－」

期間：平成17年6月28日（火）～9月19日（月・祝）（74日間）

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：21万1千人

③「キアロスクーロ木版画－ルネサンスとバロックの多色木版画

パリ、フリッツ・ルクト・コレクションの所蔵作品による」

期間：平成17年10月8日（土）～12月11日（日）（56日間）

目標入館者数：3万人

④「ロダンとカリエール」

期間：平成18年3月7日（火）～6月4日（日）

（79日間（うち平成17年度22日間））

共催：毎日新聞社・TBS

目標入館者数：11万7千人（うち平成17年度中は、2万6千人）

⑤常設展

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」

「近・現代絵画と彫刻」

版画作品展「マックス・クリンガー版画展：《イヴと未来》《ある生涯》
《ある愛》（17年春）」

版画作品展「ローマの景観：ピラネージのまなざし（17年秋）」

版画作品展「新収版画作品展（18年春）」

目標入館者数：23万人

目標入館者数計：59万1千人

(国立国際美術館)

①「オノデラユキ写真展」

期間：平成17年2月5日（土）～4月17日（日）

（62日間（うち平成17年度15日間））

目標入館者数：5万6千人（うち平成17年度中は、5千人）

②「没後100年記念 フランスの至宝 エミール・ガレ展」

期間：平成17年4月12日（火）～5月22日（日）（37日間）

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：2万人

③「シュテファン・バルケンホール：木の彫刻とレリーフ展」

期間：平成17年4月29日（金）～7月18日（月・祝）（71日間）

目標入館者数：11万3千人

④「ゴッホ展 孤高の画家の原風景 ゴッホ美術館／クレラー＝ミュラー
美術館所蔵」

期間：平成17年5月31日（火）～7月18日（月・祝）（43日間）

共催：NHK大阪放送局，NHKきんきメディアプラン

目標入館者数：10万人

⑤「転換期の作法ーポーランド，チェコ，スロバキア，ハンガリーの現代美術」

期間：平成17年8月2日（火）～10月10日（月・祝）（61日間）

目標入館者数：5千人

⑥「瑛九フォト・デッサン展」

期間：平成17年10月22日（土）～12月18日（日）（50日間）

目標入館者数：6千人

⑦「もの派ー再考ー」展

期間：平成17年10月25日（火）～12月18日（日）（48日間）

目標入館者数：5千人

⑧「プーシキン美術館展 シチューキン・モロゾフ・コレクション」

期間：平成18年1月11日（水）～4月2日（日）

（71日間（うち平成17年度69日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：5万1千人（うち平成17年度中は、5万人）

⑨常設展「コレクション1～4」他 4回陳列替え

目標入館者数：18万1千人

目標入館者数計：48万5千人

(2) 全国の公私立美術館等と連携して、次の地方巡回展及び優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

①国立美術館巡回展

ア. 「国立美術館巡回展」

期間：平成17年6月24日（金）～7月31日（日）

会場：愛媛県美術館（愛媛県）

国立美術館担当館：東京国立近代美術館

イ. 「国立美術館巡回展」

期間：平成17年8月10日（水）～9月11日（日）

会場：宮崎県立美術館（宮崎県）

②各館の巡回展

ア. 東京国立近代美術館工芸館巡回展

東京国立近代美術館工芸館においては、積極的な収蔵品の公開のため、新たに巡回展を開始する。

a. 「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」（仮称）

期間：平成17年8月27日（土）～10月13日（木）（予定）

会場：北海道立釧路芸術館

b. 「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」（仮称）

期間：平成17年10月21日（金）～12月11日（日）（予定）

会場：秋田市立千秋美術館

イ. 京都国立近代美術館巡回展

a. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成17年4月29日（金・祝）～5月29日（日）

会場：水野美術館

b. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成17年6月11日（土）～7月18日（月・祝）

会場：豊橋市美術博物館

c. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成17年7月29日（金）～8月28日（日）

会場：MOA美術館

d. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成17年9月10日（土）～10月23日（日）

会場：新潟県立万代島美術館

③優秀映画鑑賞推進事業

東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて文化庁との共催により各地の公立文化施設と連携・協力し、22プログラム（4作品1プログラム）を巡回・上映する。

期間：平成17年7月1日（金）～平成18年3月16日（木）

会場：全国130会場以上

(3) 各館で行う展覧会については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入場者数の状況等を踏まえて入館者数について目標を設定し、その達成に努める。

(4) 常設展の充実をアピールしながら、広報にも努め、その社会的認知度の向上に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

①計8回の小、中規模の特集企画を行い、その広報にも努める。

②写真作品のプリントスタディー制度を開始する。

③読売新聞東京版連載「近代美術の東京」に情報提供等の協力を行う。

④ホームページの常設展PRの充実のほか、新聞、雑誌等への掲載など多様な広報を実施する。

⑤所蔵作家による自作解説（アーティストトーク）の実施を検討・準備するなど、現代美術の普及に努める。

<工芸館>

①常設展の充実を図るため、常設展展示スペースの拡充策を検討する。

②各回の展示期間中、「人間国宝・巨匠コーナー」を設け、常に内外の工芸、デザインの名品を観覧に供し、その広報にも努める。

(京都国立近代美術館)

企画展との関連及び常設単独での特集企画を行い、その広報にも努める。

(国立西洋美術館)

テーマを設けた版画コレクション展を春期及び秋期に、また、所蔵作品を中心に常設展の作品を活用し、特定のテーマに沿って紹介するプログラム「Fun with Collection」を開催し、子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展開の充実を図り、その広報にも努める。

(国立国際美術館)

計画的な展示替えによる代表的な所蔵作品の展示に努め、常設展の充実を図る。

- (5) それぞれの館の収蔵品について、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。
- (6) 入館者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会等に反映させる。

3 調査研究

(1) 中期計画に基づき、次の調査研究を計画的に実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

- ①「戦後の日本における芸術とテクノロジー」(科学研究費補助金) 2年目
- ②所蔵作品を中心とした近・現代美術に関する調査研究
- ③美術館教育に関する調査研究
- ④美術館情報システムに関する調査研究
- ⑤小林古径に関する研究(京都国立近代美術館との共同研究)
- ⑥アジアのキュビズムに関する調査研究(国際交流基金、シンガポール美術館・ソウル国立現代美術館との共同研究)
- ⑦ドイツの現代写真に関する調査研究(京都国立近代美術館・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館との共同研究)
- ⑧アウグスト・ザンダーに関する調査研究
- ⑨須田国太郎に関する調査研究(京都国立近代美術館との共同研究)
- ⑩藤田嗣治に関する調査研究(京都国立近代美術館との共同研究)
- ⑪伊砂利彦に関する調査研究
- ⑫日本におけるアール・ヌーボーについての調査研究
- ⑬現代工芸における制作の特質についての調査研究
- ⑭戦後プロダクトデザインの成立と展開についての調査研究

<フィルムセンター>

①日本映画の所在調査

映画製作者及び国内外同種機関の協力により、存在が確認できていない昭和20年代から30年代の映画フィルムの所在調査を行う。

②映画文化に関する国際交流国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)が実施する映画保存等に関する調査研究プロジェクトに参加するとともに、会員間のネットワークを活用して、映画保存及び復元等に関する調査研究を行う。

③尾上松之助に関する調査研究

(京都国立近代美術館)

- ①村上華岳に関する調査研究
- ②日英の染織作家の現状に関する調査研究
- ③加守田章二に関する調査研究（山口県立萩美術館，岩手県立美術館，岐阜県現代陶芸美術館との共同研究）
- ④小林古径に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）
- ⑤堂本尚郎に関する調査研究（世田谷美術館との共同研究）
- ⑥須田国太郎に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）
- ⑦ポール・クローデルに関する調査研究（クローデル没後50年記念企画委員会との共同研究）
- ⑧エルンスト・バルラハに関する調査研究（東京藝術大学大学美術館・山梨県立美術館との共同研究）
- ⑨藤田嗣治に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）
- ⑩富本憲吉に関する調査研究（岐阜県現代陶芸美術館との共同研究）
- ⑪都路華香に関する調査研究
- ⑫麻田浩に関する調査研究
- ⑬他の美術館等における調査研究に対する協力
- ⑭美術館教育に関する調査研究

(国立西洋美術館)

- ①旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ②中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ③西洋美術作品の保存修復に関する調査研究
- ④美術館教育に関する調査研究
- ⑤美術館情報資料に関する調査研究
- ⑥ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス絵画に関する調査研究
- ⑦ルネサンス・バロック期のドイツ美術の研究及び同時期のドイツにおける美術品収集史に関する調査研究
- ⑧キアロスクーロ木版画に関する調査研究
- ⑨ロダン・カリエールと19世紀フランス象徴主義に関する調査研究
- ⑩マックス・クリンガー版画に関する調査研究
- ⑪ピラネージ版画に関する調査研究
- ⑫新収蔵版画作品に関する調査研究
- ⑬「16～17世紀西欧における版画出版と古代の受容」（科学研究費補助金）
3年目
- ⑭イタリア及びドイツにおける文化財保存環境整備と維持管理に関わる調査及び絵画の非破壊調査法に関する調査研究（在外研究）

(国立国際美術館)

- ①日本の現代美術に関する調査研究
- ②海外の現代美術に関する調査研究
- ③美術館教育に関する調査研究
- ④エミール・ガレに関する調査研究
- ⑤シュテファン・バルケンホールに関する調査研究
- ⑥ゴッホに関する調査研究
- ⑦中欧現代美術に関する調査研究
- ⑧瑛九に関する調査研究
- ⑨もの派に関する調査研究
- ⑩プーシキン美術館に関する調査研究
- ⑪「ドリームボディの形成ー動物性と精神性の狭間における芸術作品」
(平成17年度科学研究費補助金申請中)

(2) 客員研究員を招聘し、調査研究活動を推進する。

- ①東京国立近代美術館本館において1名を招聘し、次の活動を行う。
 - ア. プリントスタディー制度発足に向けての調査研究
 - イ. 写真作品の系統的分類, 整理および保存に関する調査研究
- ②東京国立近代美術館工芸館において1名を招聘し、次の活動を行う。
 - ア. 普及広報, 教育活動のあり方の調査研究
 - イ. 作品に触れる鑑賞教室と展示解説を中心としたボランティア活動の調査研究
- ③東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて4名を招聘し、次の活動を行う。
 - ア. 所蔵映画フィルムの内, 戦前期の日本ニュース映画のデータ分析とカタログ化に関する調査研究(継続)
 - イ. 所蔵映画フィルムの内, 日本文化・記録映画のデータ化に対する分析及び調査研究
 - ウ. 松竹が日本映画史に果たした役割の調査研究
 - エ. 海外同種機関等との共同企画等に関する調査研究
- ④国立西洋美術館において3名を招聘し、次の活動を行う。
 - ア. 美術館教育に関する調査研究
 - イ. 広報事業等に関する指導・助言
- ⑤国立国際美術館において1名を招聘し、次の活動を行う。
 - ア. 紙支持体作品の保存に関する調査研究
 - イ. 現代美術作品の保存に関する調査研究

(3) 大学院との連携協力

国立西洋美術館において、大学院(東京大学大学院人文社会系研究科)と連携して西洋美術に関する人材を教育する。

- (4) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって公表する。

4 教育普及

- (1) 国内外の美術館等と図書を交換することにより、資料の積極的収集を図る。

- (2) 広く公衆のニーズに応えるため、収蔵作品のデータベースを推進する。
平成17年度は、特に次の事業を実施する。

- ①独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム（試行版）（平成17年3月1日公開）を本版として、引き続き公開するとともに、文字データ、画像データの拡充につとめる。
- ②引き続き文化庁が行う「文化遺産オンライン構想」に参加し、①の独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムから、一括してデータを提供することによって、「文化遺産オンライン構想」での公開所蔵作品情報の充実を図る。

- (3) 情報コーナー、アトライブラリ、資料閲覧室等による入館者サービスに努める。

平成17年度は、特に次の事業を実施する。

- ①東京国立近代美術館においては引き続き、国立西洋美術館においては新たに、ALC（美術図書館連絡会）に参加し、横断検索システムでの所蔵図書データ検索も可能とする。
- ②国立国際美術館においては、情報コーナーに配置する刊行物その他関連資料等の更なる充実に努める。

- (4) 児童生徒を対象とした教育普及事業に積極的に取り組む。

平成17年度は、特に次のような事業を実施する。

（東京国立近代美術館）

<本館・工芸館>

- ①学校からの要請による見学（ギャラリートーク他）の受け入れの促進
- ②ホームページ内の「こどものページ」の掲載作品数の拡充
- ③本館においてボランティア（ガイドスタッフ）による子どもを対象とした鑑賞教室とワークショップ付きの「こども美術館」プログラムを実施
- ④本館において小・中・高校教員を対象に、展覧会に関する講演と鑑賞の機会を提供する「教職員研修会」適時実施
- ⑤工芸館において、子どもを対象とした鑑賞ワークシートを作成するとともに、親と子を対象としたボランティア（ガイドスタッフ）による鑑賞教室を

実施

<フィルムセンター>

- ①夏休み及び春休み期間中に実施してきた名作映画鑑賞を主体とした「こども映画館」に、展覧会の鑑賞を含めた児童生徒向けのギャラリートークやレクチャー等を加え、より内容を充実させた事業を実施
- ②相模原市内の小・中学校からの要請を受け、フィルムセンター相模原分館において、「小・中学生向け上映会」を実施（3回）

(京都国立近代美術館)

- ①小学生を対象としたワークショップの実施（2回）
- ②親と子（小学生）を対象とした観賞教室の実施（1回）
- ③中学生を対象とした「生き方探究・チャレンジ体験」の実施（年間5校程度）

(国立西洋美術館)

- ①Fun with Collection '05「あなたのメガネ貸してください no.1」（仮称）を実施（随時）
上記に関連して「創作・体験プログラム」を実施（6回）
- ②「先生のための観賞プログラム」（小・中・高等学校の教員対象）を実施（4回）
- ③ファミリー・プログラム「びじゅつーる」の貸し出しを実施（12回）
- ④ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」を実施（16回）
- ⑤「スクールギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）を実施（予約制）

(国立国際美術館)

- ①小・中学生を対象としたワークショップ（企画展及び常設展に関連した専門家を招聘し、レクチャー、共同制作などの実践を通じて、現代美術をより身近に感じてもらうためのプログラム）の実施（夏休み及び春休み期間中に4回）
- ②小学生を対象としたギャラリートーク（常設展の展示替えごとに設定される絵画、彫刻、写真、版画などの中心ジャンルを重点的に紹介し、対話を通じてさまざまな現代美術作品に触れ、親しんでもらうためのプログラム）の実施（6回）

(5) 次の講演会等を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

(本館企画展)

- ①「ゴッホ展」に関する講演会（2回／うち1回は平成16年度）
- ②「小林古径展」に関する講演会（2回）
- ③「アジアのキュビズム」に関する講演会及びギャラリートーク（5回）
- ④「ドイツ写真の現在」に関する講演会及びギャラリートーク（4回）

⑤「アウグスト・ザンダー展」に関するギャラリートーク（1回）

⑥「須田国太郎展」に関する講演会（2回）

（本館常設展）

①引き続き研究員による本館常設展の「ハイライト・ツアー」（無料観覧日である毎月第1日曜日）及び「フライデー・トーク」（毎月1回）

②引き続きガイドスタッフ（ボランティア）による、本館常設展のギャラリーガイド（毎日）

（工芸館企画展）

①「伊砂利彦」展に関するギャラリートークを実施（4回）

②「日本のアール・ヌーボー」展に関するギャラリートーク（4回）

③「渡辺力のデザイン」展に関するギャラリートーク（3回）

（工芸館常設展）

①研究員によるギャラリートーク（10回）

②ガイドスタッフ（ボランティア）による、展示解説と類似作品に触れる鑑賞教室（毎週水曜日・土曜日に実施）

③夏休みこども鑑賞教室（ワークショップ）（1回）

<フィルムセンター>

①「成瀬巳喜男監督」に関する講演会（1回）

②展覧会「尾上松之助と時代劇スターの系譜」に関する講演会（1回）

（京都国立近代美術館）

①「村上華岳展」に関する講演会（2回）

②「**throughthesurface**：表現を通してー現代テキスタイルの日英交流」に関する講演会（1回），シンポジウム（1回），ワークショップ（1回）

③「加守田章二展」に関する講演会（1回）

④「小林古径展」に関する講演会（2回）

⑤「堂本尚郎展」に関する講演会（1回）

⑥「須田国太郎展」に関する講演会（2回）

⑦「ドイツ写真の現在展」に関する講演会（1回）

⑧「エルンスト・バルラハ展」に関する講演会（1回）

（国立西洋美術館）

①「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールー 光と闇の世界」に関する講演会（5回），スライドトーク（5回）

②「ドレスデン国立美術館展ー世界の鏡ー」に関する講演会（3回），スライドトーク（5回）

③「キアロスクーロー ルネサンスとバロックの多色木版画 パリ，フリッツ・ルクト・コレクションの所蔵作品による」に関する講演会（3回），ギャラリートーク（3回）

④「ロダンとカリエール」に関する講演会（1回），スライドトーク（1回）

⑤展覧会に関連する音楽プログラム（1回）

⑥「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールー 光と闇の世界」に関する音楽会（3回）

（国立国際美術館）

①「没後100年記念 フランスの至宝 エミール・ガレ展」に関する講演会（2回）

②「シュテファン・バルケンホール展」に関する講演会（1回），ギャラリートーク（1回）

③「ゴッホ展」に関する講演会（2回）

④「転換期の作法ー共鳴する未来1ーポーランド，チェコ，スロバキア，ハンガリーの現代美術」に関する講演会（1回），ギャラリートーク（2回）

⑤「瑛九展」に関する講演会（1回），ギャラリートーク（1回）

⑥「もの派ー再考ー」展に関する講演会（2回），ギャラリートーク（1回）

⑦「プーシキン美術館展」に関する講演会（2回）

（6）美術館関係者等を対象とした，次の研修事業を実施する。

①美術館の要請に応じ，東京国立近代美術館において，キュレーター実務研修を実施。

②東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて，「映画製作専門家養成講座」の在り方について見直しを含め，その実施について検討を行う。

③国立西洋美術館及び国立国際美術館において，昨年度に引き続きインターンシップを実施。

（7）他の機関が実施する次の研修への協力を実施する。

①東京国立近代美術館において，文化庁と共催により「美術館等運営研究協議会」を実施。

②京都国立近代美術館において，文化庁と共催により「美術館・歴史博物館学芸員専門研修会」を実施。

③大学生の学芸員資格取得のための博物館実習

（8）研究成果を踏まえて，次の出版事業等を行う。

（東京国立近代美術館）

①「平成16年度年報」

②「東京国立近代美術館概要」

③「東京国立近代美術館研究紀要」

④「所蔵品目録 水彩・素描 書 彫刻 資料 戦争記録画」

⑤展覧会，講演，企画上映に伴う図録等の刊行物の発行

⑥「現代の眼」 6回発行

⑦展覧会案内（カレンダー）（和・英） 1回発行

- ⑧「NFCニューズレター」 6回発行
- ⑨「NFCカレンダー」 企画毎発行

(京都国立近代美術館)

- ①「平成16年度年報」
- ②「京都国立近代美術館概要」
- ③展覧会に伴う図録の発行
- ④美術館ニュース「視る」 6回発行
- ⑤展覧会カレンダー 3回発行
- ⑥友の会会報 4回発行

(国立西洋美術館)

- ①「国立西洋美術館年報No. 39」
- ②「国立西洋美術館研究紀要No. 10」
- ③「独立行政法人国立美術館国立西洋美術館要覧」
- ④展覧会に伴う図録の発行
- ⑤展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」の発行
- ⑥「国立西洋美術館ニュース（展示予定表掲載）」 4回発行
- ⑦「独立行政法人国立美術館国立西洋美術館リーフレット」

(国立国際美術館)

- ①「平成16年度年報」
- ②「国立国際美術館概要」
- ③展覧会に伴う図録の発行
- ④展覧会に伴うフロアガイドの発行
- ⑤「ジュニアガイドブック」 1回発行
- ⑥「美術館ニュース」 6回発行
- ⑦展覧会案内 1回発行

(9) 法人のホームページ及びそれぞれの館のホームページを積極的に活用して、広く公衆への普及及び広報を行う。

平成17年度は、特に次の事業を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

- ①引き続き英語版ホームページ（美術館概要については、仏・独・中・韓国語版）の充実に努める。
- ②企画展の割引入場引換券を掲載する。

<フィルムセンター>

引き続き、映画フィルム検索システムヘデータの集積を図るとともに、ホームページでの検索・公開を行う。

(京都国立近代美術館)

①京都国立近代美術館所蔵品検索（試行版）を充実。

ア．現在の文字情報に加え，画像についても順次掲載していく。

イ．現在の和文に加え，英文も併記する。

②展覧会図録を寄贈している，北隣の京都府立図書館の蔵書リストを当館ホームページに掲載する。

(国立西洋美術館)

①コレクション，展覧会情報，講演会・スライドトーク等のイベント，交通・利用案内，館内施設案内の掲載及び適時更新を図る。

②海外からのアクセスに対応した英語版ホームページを整備する。

③視覚障害者向け音声案内機能，携帯電話用（iモード等）コンテンツ等の作成による，広報機能の充実を図る。

④インターンシップ募集等の事業案内情報を掲載する。

⑤企画展の割引入場引換券を掲載する。

⑥所蔵図書データを公開する。

(国立国際美術館)

展覧会情報や教育普及事業など，館の活動状況の積極的な広報のため，ホームページの内容充実を図る。

(10) 次のようにボランティア活動を実施する。

①東京国立近代美術館本館においては，引き続き所蔵作品の解説ボランティア（ガイドスタッフ）の活動の充実を図るとともに，小・中学生向けの鑑賞プログラムを実施する。

②東京国立近代美術館工芸館においては，平成16年6月から実施している解説ボランティアの活動の充実を図る。

③京都国立近代美術館においては，「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会等との連携による，ボランティアを受入れる。

④国立西洋美術館においては，ボランティアスタッフによる，小・中・高校生の団体を対象とした常設展でのスクール・ギャラリートークを平成17年度より開始し，ボランティア活動の一層の充実を図る。

⑤国立国際美術館においては，昨年度に引き続き，学生ボランティアを受入れる。

(11) 企業との連携等について検討を行う。

企業とのタイアップによる前売券の発券，企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等，企業との連携を進める。

(東京国立近代美術館・国立西洋美術館)

東京地下鉄株式会社，小田急電鉄株式会社と連携し，両社が発売する周遊券（一日乗車券）利用者の観覧料金割引を実施。

(東京国立近代美術館)

<本館>

- ①「Weekly ぴあ」(発行:ぴあ(株)), ホームページ「美術館.com」(運営:(株)日本スタジオ)に展覧会情報を掲載
- ②東京地下鉄株式会社が発行する「メトロニュース」等の情報誌及びチラシに展覧会情報を掲載
- ③特定の展覧会に際し, 有力書店等にチラシの配布と広報紙への情報掲載を依頼
- ④京王エージェンシーに展覧会ポスター掲出を依頼
- ⑤本館, 工芸館の最寄り駅である地下鉄東西線竹橋駅に展覧会ポスター等の掲出及びチラシ配布を依頼
- ⑥助成金により, 所蔵品ギャラリーフロアガイド外国語版を作成, 外国人観覧者へ配布

<工芸館>

「月刊タイム銀座」, 「茶道誌淡交」に所蔵作品を紹介。また「I CLUB」に展覧会情報を掲載。

(京都国立近代美術館)

- ①「JAF Mate」(発行:(社)日本自動車連盟), 「PASS」(発行:朝日友の会), 「HANA PLUS ご優待ガイド」(発行:(株)阪急カード), 「e-kenet LETTER」(発行:(株)京阪カード), 「resoNAVI」(発行:(株)リロクラブ)に展覧会情報を掲載。同時に割引を実施
- ②英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行:(財)大阪21世紀協会)に展覧会情報を掲載。外国人旅行者に対する普及広報を実施
- ③(財)京都市駐車場公社と連携し, 岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し, 駐車場料金の割引を実施

(国立西洋美術館)

- ①地域企業と連携し, 広報誌「うえの」(発行:上野のれん会), 「Weekly Matsuzakaya」(発行:上野松坂屋)に展覧会情報を掲載
- ②「Weekly ぴあ」(発行:ぴあ(株))に展覧会情報を掲載
- ③東京地下鉄株式会社等の各駅及び車両内の周遊券(一日乗車券)広報媒体へ, 美術館情報の掲載を実施
- ④助成金により広報印刷物を作成, 観覧者へ配布

(国立国際美術館)

- ①「JAF Mate」(発行:(社)日本自動車連盟), 「アサヒメイト」(発行:朝日友の会), 「HANA PLUS ご優待ガイド」(発行:(株)阪急カード), 「e-kenet LETTER」(発行:(株)京阪カード), 「レインボウファミリー」(発行:大阪市交通局)に展覧会情報を掲載。同時に割引を実施
- ②英語・日本語併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行:(財)大阪21世紀協会)に展覧会情報を掲載し, 外国人旅行者に対する普及広報を実施

- ③近隣ホテル（ロイヤルホテル等）と連携し、広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施
- ④各種広報媒体に対する展覧会情報の掲載を積極的に進め、より効果的な普及広報を図る

（12）他の機関が実施する次の事業への参加及び協力を実施する。

（東京国立近代美術館＜本館・工芸館＞・国立西洋美術館）

- ①昨年度に引き続き、東京の美術館・博物館等46館で実施する共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加
- ②昨年度に引き続き、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して常設展の割引を行うことにより、我が国の近代美術及び西洋美術の振興と普及広報を図る。

（京都国立近代美術館・国立国際美術館）

- ①平成17年度より、関西の美術館・博物館等約60館で実施する共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2005」に参加。

（東京国立近代美術館）

＜フィルムセンター＞

- ①文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力
- ②文化庁芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会」に協力
- ③国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力

（国立西洋美術館）

上野の山を芸術・文化の拠点として発展させることを目的とした台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」及び「上野地区観光まちづくり推進会議」へ参加し、上野地区の一体的な盛り上げを図る。

（13）友の会等活動の検討、実施

（東京国立近代美術館）

- ①昨年度から実施している賛助会員制度の活動をさらに展開する。
- ②パスポート会員制度を導入する。
- ③友の会制度の導入を検討する。

（京都国立近代美術館）

平成15年度から実施している友の会の活動を平成17年度から次の事業を展開する。

- ①京都市立芸術大学との連携による定期演奏会
- ②見学会
- ③ワークショップ

（国立国際美術館）

昨年度に設立した友の会について、活動内容等の充実を図りながら、さらなる拡充に努める。

5 新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）の設置準備

(1) 設立準備室の事務体制の充実を図る。

(2) 国立新美術館運営協議会において、開設準備に関する重要事項を検討する。

(3) 各事業について、次のとおり準備作業を行う。

①展覧会事業

ア. 平成19年度に施設を使用する美術団体等の決定

イ. 平成20年度に施設を使用する美術団体等の募集

ウ. 自主企画展及び共催展の開催に向けた準備業務

②情報収集・提供事業

ア. 収集計画に基づいた国内外の展覧会に関する図録、記録等の収集

イ. 図書情報システムの実施設計の作成

ウ. 国内外の展覧会に関する情報システムの実施設計の作成

③教育普及事業

ア. 展覧会の開催に併せた講演会、研修会、公開講座、シンポジウム等の実施に向けた具体的な検討

イ. より開かれた美術館を目指し、ボランティアの導入等の実施に向けた具体的な検討

④その他の美術館開館後の円滑な業務の実施に向けた準備を図る。

(4) 美術関係者等を対象としたインターンシップの実施。

(5) 設立準備における現状をインターネットや準備室ニュース等の媒体を通して発信し、広報活動の充実を図る。

6 その他の入館者サービス

(1) 引き続きバリアフリー化、車椅子の提供等入館者サービスに努める。

(2) 展示説明の見直しなど、鑑賞環境の充実に努める。また、作品リストの無料配付等を行う。

(東京国立近代美術館)

「展覧会案内（ミュージアム・カレンダー）（本館・工芸館、フィルムセンター

共通)」日本語版および英語版を作成・配付。

<本館・工芸館>

①本館・工芸館において、次の事業を実施する。

昨年度に近隣観覧施設（国立公文書館，科学技術館，三の丸尚三館）と連携し作成した「北の丸公園・皇居東御苑文化ゾーン」マップを平成17年度も引き続き作成し来観者へのサービスに努める。

②本館において、次の事業を実施する。

ア．昨年度に着手された常設展のセクションと順路の表示の改良をさらに進める。また，1階ロビーではデジタル・ディスプレイによる常設情報の提示を続け，常設展認知度の向上を図る。

イ．カラー図版入りの親しみやすい常設展鑑賞の手引き「鑑賞ノススメ」を常設展ギャラリーの各階に配置。また，常設展の音声ガイドなどの可能性を調査・検討する。

ウ．「所蔵作品展フロアプラン（日本語・英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語）」を配付し，観光客を含めた観覧者へのサービスを拡充。

③工芸館において、次の事業を実施する。

ア．引き続き鑑賞カードを無料配布

イ．工芸館の展示場，収蔵庫の拡充整備を検討

<フィルムセンター>

展覧会の開催に際し，展示作品の出品目録を無料で配布する。

(国立西洋美術館)

①国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語版，英語版，韓国語版，中国語版），小・中学生向け解説「びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド」，常設展「本館参考順路図」及び企画展「作品リスト（日本語版，英語版）」を無料で配布する。

②企画展「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールー 光と闇の世界」において，マルチメディア情報コーナーを設置し，鑑賞環境の充実を図る。

(国立国際美術館)

展覧会において可能な限り「フロアガイド」を無料配布し，観覧者へのサービスを図る。

(3) 鑑賞機会の確保，観覧者の増加を目指すとともに，あわせて入館者サービスの向上を図るため，平成17年度は次のとおり実施する。

①引き続き小・中学生の常設展料金の無料化を継続。共催展についても共催者の了解の得られたものは同様に実施。

②引き続き高校生の常設展料金の減額措置を継続。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

- ①昨年度の企画展に続き，平成17年度も企画展に際して割引券を発行。
- ②年末年始の休館日を12月29日から1月1日に短縮。また1月3日（火）の休館日を開館。
- ③「ゴッホ展」会期中の休館日を4月11日（月）のみに縮減。また，同会期中通常金曜日のみの夜間開館を木曜日にも実施。
- ④昨年度より実施している事前申請による「常設展会場」撮影許可について，平成17年度も継続し実施。
- ⑤常設展「近代日本の工芸」の休館日である3月28日（月）及び4月4日（月）を臨時に開館。
- ⑥共催展「ゴッホ展」の開催に当たり，東京駅より毎日シャトルバスを運行する。

<フィルムセンター>

- ①引き続き平日夜の上映開始時間を午後7時に30分繰り下げる。
- ②引き続き展示室の開室時間を午前11時から午後6時30分まで，30分繰り下げる。
- ③上映会「映画監督 稲垣浩」の開催時において，試行的にこれまで1日2回の上映を平日は1日2回，土曜・休日は1日3回の上映とし，「映画監督 成瀬巳喜男」の開催時においては，平日は1日3回，土曜・休日は1日2回の上映とする。

（京都国立近代美術館）

「村上華岳展」の休館日である5月2日（月）を臨時に開館。

（国立西洋美術館）

- ①自主企画展「キアロスクーロー ルネサンスとバロックの多色木版画 パリ，フリッツ・ルクト・コレクションの所蔵作品による」において，割引券を発行
- ②企画展「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールー 光と闇の世界」の休館日である5月2日（月）を臨時に開館
- ③企画展「ドレスデン国立美術館展ー世界の鏡ー」の休館日である8月15日（月）を臨時に開館
- ④年始は1月2日（月）から開館する。また，1月3日（火）を開館
- ⑤春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について，午後5時の閉館時間を，午後5時30分まで延長
- ⑥12月に，クリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催

（国立国際美術館）

「没後100年記念 フランスの至宝 エミール・ガレ展」開催中のゴールデンウィークの休館日である5月2日（月）を臨時に開館。

- (4) 引き続きフリーゾーンの活用，レストラン及びミュージアムショップを生かしたサービスの充実に努める。

- ①東京国立近代美術館フィルムセンターでは、映画を愛好する方々のため、1階エントランスロビーに「映画の広場」を開設し、その充実に努める。
- ②国立国際美術館では、地下1階パブリックゾーンにあるキッズルームの更なる充実に努める。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

2 収支計画

別紙のとおり。

3 資金計画

別紙のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

①職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

- 1) 新規採用者・転任者職員研修
- 2) 接遇研修

②外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

1 予算(年度計画の予算)

平成17年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	4,984
施設整備費補助金	0
展示事業収入	336
計	5,320
支 出	
運営事業費	5,320
人件費	1,240
業務経費	4,080
うち一般管理費	1,084
うち展覧事業費	2,112
うち調査研究事業費	212
うち教育普及事業費	437
うち国立新美術館設立等準備事業費	235
施設整備費	0
計	5,320

2 収支計画

平成17年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,332
經常経費	5,332
人件費	1,240
業務経費	4,056
うち一般管理費	1,060
うち展覧事業費	2,112
うち調査研究事業費	212
うち教育普及事業費	437
うち国立新美術館設立等準備事業費	235
減価償却費	36
収益の部	5,332
運営費交付金収益	4,960
展示事業等の収入	336
資産見返運営費交付金戻入	13
資産見返物品受贈額戻入	23

3 資金計画

平成17年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	5,320
業務活動による支出	5,296
投資活動による支出	24
資金収入	5,320
業務活動による収入	5,320
運営費交付金による収入	4,984
展示事業等による収入	336
投資活動による収入	0
施設整備費補助金による収入	0